

『手形割引』より『借入金』を 活用することをお勧めします

1. 目的

比較的簡単に実施できる割引手形を後回しにして、手持ちの手形を増加させ、いざ！という時の余裕資金をつくるためです。

2. 方法

資金が必要なら借入をして、
受取手形の手持ちを増加します。



3. 留意点

1. 手形割引も借入金も、負担する金利に大差はありません。同額の金利を支払うならば、《割引料》よりも《借入金の利息》として支払う方が経営的には多くの長所があります。
2. 手形割引の枠は、比較的容易につくることができるから、借入金の枠を拡大することを先に実行するべきです。

ひとこと
助言欄

受取手形は、期日迄手持ちすることが原則です。

